

堆肥の生産・販売に関するQ&A

Q:	家畜ふん堆肥を使うと土壤に塩類が集積し、作物の塩類障害が心配されるとの理由で、堆肥を利用してくれません。本当に堆肥利用が塩類障害をおこすのでしょうか？ 現に堆肥を利用している方から塩類障害の苦情がないのは何故でしょうか？
A:	<p>塩類を塩(しお)と勘違いしている耕種農家もありますが、塩類とは硝酸塩、硫酸塩等の無機塩類を意味します。堆肥の塩類濃度を堆肥を溶かした水のEC(Electric Conductivity、電気伝導度)値で表すのは無機塩類を含む水ほど電気伝導率が高くなるからです。</p> <p>堆肥に含まれる無機塩類のほとんどが窒素、リン酸、カリ、苦土等の肥料成分です。したがって、化成肥料の塩類濃度(EC)は堆肥とは比較にならないほど高く、過剰に施用している化成肥料だけで土壤の塩類集積が心配されています。このような状況で追加的に堆肥を施用するため、後から施用した堆肥が塩類集積の犯人と誤解されています。堆肥の塩類(肥料成分)は少ないのですから、その肥料成分の量だけ化成肥料を減らすことで塩類集積を防ぐことができます。堆肥を使えば化成肥料の節約と土作り、地力の増強等、一石二鳥の効果があることを説明し、耕種農家の誤解を解いてあげてください。</p> <p>有機農業や持続型農業のキーワードが化成肥料使用量の抑制なのですから。</p>